

## 『哲学の探求』第53号刊行にあたって

今年もみなさまに『哲学の探求』をお届けすることができ、大変嬉しく思います。今回の『哲学の探求』には、テーマレクチャー「哲学史の哲学・解釈の哲学」に登壇していただいた内山真莉子先生、西内亮平先生、飯泉佑介先生それぞれによる論考が3本、個人及び共同研究発表をしてくださった方々による論考が13本掲載されています。これほど充実した論集をお届けできるのも、発表者のみなさま、レクチャーの先生方、一般参加者のみなさまのご協力があったことです。みなさまの多大なるご支援に心より御礼申し上げます。そして何より、刊行までの仕事を一手に担ってくださった編集担当の下山千遥さんと山田耀真さんに重ねて感謝申し上げます。

振り返れば、2025年度はフォーラムの運営に関する幾つかの転換点にあったと思われまます。これまでの研究集会は夏頃の開催を慣例としていましたが、例年の酷暑による参加者の負担を考慮し、2025年度は10月初週の開催といたしました。この2025年度大会では新たにポスター発表枠を設け、講演形式とは異なる方法での発表を可能にしました。また、運営委員に新たな役職として「庶務」を設置し、これまで以上に柔軟な運営を可能にするための人員配置へと転換いたしました。さらに、安定的な運営予算確保のためのクラウドファンディングの準備を開始し、同年12月に学術系クラウドファンディング「academist」での支援の募集が始まりました。支援募集の開始以来、みなさまからの多大なご支援をいただいております。そして、この論集『哲学の探求』の既刊のJ-STAGEへの登録も開始しております。これまでフォーラムのホームページからのみアクセス可能だった過去の論集が、哲学に関心を持つさらに多くの人々に届くことを願っております。このような多くの転換は、ひとえにより多くの「若手」研究者を支援し、その研究を奨励することを目的としています。

哲学若手研究者フォーラムはその名の通り「若手」のための研究集会と位置付けられています。しかし、ここでの「若手」とは、単に学年や年齢が若いことを意味するものではありません。フォーラムでは、経歴にかかわらず哲学の研究者としての初期キャリアを歩みはじめた全ての方々を抱括的に表すために「若手」という語を用いています。こうした広い意味での「若手」を用いているのは、哲学の研究には多様な背景、多様な経歴、多様な立場の人々が参画し、協働する必要があるためであると考えからです。哲学は多くの学術領域と隣接し、問題を共有しながら発展しています。こうした発展を支えるのは、他の分野の研究者や今まで学術分野に関わって来なかった人々との交流と協働です。こうした「異分野交流」が可能な開かれた場所であるために、哲学若手研究者フォーラムはあえて「若手」に厳密な要件を設けていません。そして今後も開かれた場所として多くの人々を歓迎します。

最後に、こうした研究交流の場を支えるために尽力してくださった全ての人々に感謝いたし

ます。たくさんの方が参加し、意見し、支援をしてくださることが哲学若手研究者フォーラムの運営につながっております。そして、みなさまからの温かい支援のもとで、今後も哲学若手研究者フォーラムの活動が哲学研究の発展につながることを願っております。

2025 年度哲学若手研究者フォーラム運営委員・総務担当 近藤 玲